

Bangladesh フィールド便り



2023 年 No1.



山田悦子
プログラムアナリスト

フェリス女学院大学卒業後、東京大学院(人間の安全保障プログラム)及びブラッドフォード大学院(英国)で修士号 (MA in Conflict, Security and Development) を取得。その後、外務省 (国際協力局 国別開発協力第三課) 青年海外協力隊 (カメルーン、コミュニティ開発) 国連 PKO/国連中央アフリカ多面的統合安定化ミッション MINUSCA (政務及び危機管理) に勤務。2022 年 3 月より現職。

はじめまして

私は、2022 年 3 月より日本政府のジュニア・プロフェッショナル・オフィサー (JPO) 制度を通じて、国連人口基金 (UNFPA: United Nations Population Fund) バングラデシュ事務所 でプログラムアナリストとして働いている山田悦子です。この「フィールド便り」を通じて、UNFPA の活動理念やバングラデシュでの活動を知っていただけたらと思います。

UNFPA の活動理念

ご存じのように現在国連は 2030 年までに持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals) の達成を目指しています。17 の目標があり、その中でも UNFPA は特に目標 3,4,5 に力を入れている国連機関です。

- 目標 3 「すべての人に健康と福祉を」
- 目標 4 「質の高い教育をみんなに」
- 目標 5 「ジェンダー平等を実現しよう」

また、UNFPA は特に人口問題やセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス (性と生殖に関する健康) に取り組んでおり、以上の 3 つの目標を達成するため以下のミッション (使命) に基づいて UNFPA は日々活動をしています。

UNFPA が掲げる 3 つのミッション

- 1) 家族計画サービスへのアクセスが満たされない状況を ZERO にします
- 2) 妊娠・出産による妊産婦の死亡を ZERO にします
- 3) 児童婚などの有害な慣習とジェンダーに基づく暴力を ZERO にします

バングラデシュ人民共和国について

『世界人口推計—2022 年改訂版— (World Population Prospects, the 2022 Revision)』によると、2022 年 11 月に世界人口は 80 億人に到達すると発表されました。同報告書によると、バングラデシュは 2022 年で人口



が 1.7 億人に達し、世界第 8 位となるとされています (日本 11 位、約 1.2 億人)。

バングラデシュは南アジアに位置し、面積は 14 万 7 千平方キロメートル (日本の約 4 割) 主要な産業を衣料品・縫製品産業、農業です。首都ダッカではほとんどの車が日本車で、日本語のステッカーを付けた車をたくさん目にします。バングラデシュ人の同僚も日本車は高いけど長持ちする、20 年以上使っているけど壊れないと言ってくれます。当地に進出している日本企業は約 300 社になります。

UNFPA バングラデシュ事務所と日々の業務

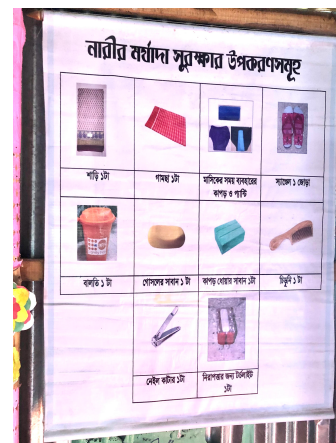
UNFPA はバングラデシュで 1974 年に活動を開始しました。バングラデシュ事務所は UNFPA ではアジア・太平洋地域事務所（APRO）に所属し、予算規模、統括するプログラム数などではアフガニスタンに次いで大きく、首都ダッカとコックスバザールにある事務所合わせて、スタッフは総勢 160 名です。UNFPA は人口問題やセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）に取り組む組織であるため、同僚の中には医師や看護師、助産師の資格を持つスタッフもいます。



私が初めて出張で訪れたクリグラムにある島（首都ダッカから約 340 キロ離れた北西部に位置する）では、「女性のための安全スペース（Women Friendly Space:WFS）」という、女性と少女、5 歳未満の男児だけが立ち入りを許可された建物があります。

女性の心理社会カウンセラーや助産師らが勤務し、利用する少女や女性に対して健康管理、妊婦健診から女性の権利についての情報共有や、月経教育、DV や

性暴力などに遭遇した場合のホットラインなどの情報共有など、少女や女性がよりよく生活できるようにする多目的な施設です。訪問時は、学校のある日でしたが、就学年齢の 8-10 歳ごろの少女が利用していました。話を聞くと、彼女たちが住む島には学校がなく、通学するにはお金を払い、所要時間 10 分ほどの電動ボートに乗って通学する必要があります。加えて、通学路で嫌がらせを受けたり、学校のトイレが男女共用で汚く、利用したくない、という理由で少女たちが学校から足が遠のいているのだそうです。また村の女性の話によると、生理用品が普及していない、普及していたとしても高額で買えない、そのため生理の時は布切れを使っている、など厳しい村の女性の状況がわかりました。



出張当時は天気の穏やかな時期でしたが、当該地域は国連常駐調整官事務所（UNRCO）と災害救済復興省（MDRR）が作成したハザードマップによると、モンスーン（豪雨）や洪水などの自然災害に非常に弱い地域であり、かつ社会経済インフラも不十分なため、災害対策が必要とされている地域でもあります。そのため私たちは先行行動フレームワーク（Anticipatory Action Framework:AAP）という取り組みをしています。いざ災害が発生した場合に、あらかじめ人口規模や地域の情報をもとに算出したデータを用いて、迅速に支援物資（ディグニティ・キット：基本的な衛生環境を維持し、人間としての尊厳（ディグニティ）を保つために必要な日用品が入ったキット。一般的に、生理用品、下着、歯ブラシ、洗剤等を含む。右記写真参照）を配布できる計画を立てています。出張中には、災害時に配布する物資を管理するパートナー NGO の事務所や倉庫を訪問し、地域の状況や活動、物資の保管状況を確認しました。